

平成9年のマツタケ発生状況について

1. マツタケの生産基盤

毎年、マツタケの発生状況については多くの人々から関心が寄せられていますが、この発生量は発生源であるシロの数と毎年の気象条件によって大きく左右されます。

マツタケが主にアカマツ林から発生することは良く知られていますが、アカマツ林であればどこからでも発生するという訳ではなく、マツタケの繁殖に適した地質、土壌、地形、林齢、等が整い、シロが形成されて初めて発生に結び付きます。県下のシロの現存数は残念ながら不明ですが、マツタケ発生林の面積としては5千7百ha程度と推定され、将来環境改善施業を行うことにより1万3千haまで増やすことが可能とされています。

そこで本県のマツタケ発生能力を大まかに試算してみました。マツタケの理想的なシロ数はha当り50～60個とされていますので、ここでは50個を用います。1シロ当りの発生量は豊丘村試験地の例から個重40gのものが10本発生すると想定しますと、1ha当りの発生量は20kgとなります。これに現在の発生林面積を乗じると本県の年間最大発生量は114トンとなり、将来的には274トンという大きな数字になります。

しかしながら、実際の発生量は良い年で70トン、平年作で30トン前後ですから大分開きがあります。この要因としては、各産地の実態からみてha当りのシロ形成数が平均50個に達していないものと考えられ、発生林であってもまだ山の手入れ不足から生産能力を最大限に発揮していない状態といえましょう。

2. 平成9年の発生量と気象条件

マツタケの発生には毎年の気象条件が大きく影響を与えています。つまり、春から夏にかけてはシロ（菌根帯）の拡大と熟成に関係する条件が、秋には原基形成と子実体の成長に関係する条件があり、この両者の条件が整って初めて豊作に結び付く訳です。

まず、シロの拡大期はアカマツの根が伸長する春から梅雨明け頃であり、この時期は温度が順調に上昇するとともに適度な降水量が必要です。夏はシロの拡大は止まりますが菌根内の養分の蓄積つまり熟成期にあたり、本県では高冷地という点から温度は上がるほど良いといえます。梅雨期に低温、長雨が続き梅雨マツタケの多く出るような年は、秋本番の発生は今一となります。梅雨から

表1 平成9年気象官署別月平均気温、降水量の推移（平年値1961～1990年、※1979～1987年）

官署名		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
		値	平年比	値	平年比	値	平年比	値	平年比	値	平年比	値	平年比	値	平年比
長野	℃	10.5	+0.1	16.5	+0.8	20.6	+1.0	24.0	+0.5	24.8	0.0	19.5	-0.4	12.6	-0.5
	mm	59.0	97%	73.5	93%	80.5	59%	130.0	90%	92.0	99%	122.5	96%	3.5	5%
松本	℃	11.0	+0.6	16.8	+1.2	20.3	+1.0	24.0	+0.9	25.2	+1.1	19.3	0.0	12.9	+0.6
	mm	85.0	98%	83.0	88%	52.5	34%	122.5	90%	21.5	23%	143.0	98%	5.5	6%
飯田	℃	12.0	+0.4	16.7	+0.5	20.4	+0.5	23.9	+0.4	24.9	+0.5	20.7	+0.5	12.9	-0.7
	mm	157.0	106%	144.0	95%	157.0	66%	339.0	159%	74.5	50%	218.5	112%	17.5	15%
諏訪	℃	10.0	+0.5	15.4	+0.7	19.0	+0.5	22.4	+0.1	24.0	+0.8	18.9	+0.1	11.7	-0.7
	mm	110.0	101%	125.5	114%	92.5	46%	245.0	116%	98.0	76%	244.5	133%	5.0	5%
※ 上田	℃	10.8	+0.2	16.2	±0.0	20.1	±0.0	23.8	+0.5	25.0	0.0	19.6	-0.3	12.3	-1.0
	mm	67.0	113%	84.0	104%	66.0	55%	100.0	74%	25.0	23%	117.0	89%	7.0	11%

夏にかけては日中十分に温度が上がり、度々夕立が来るといった条件が適しています。

次に、発生については地温が19～15℃程度に下がる間（本県では8月下旬～9月中旬頃）に子実体原基が形成されますが、この時期に豊富な降水量が求められます。雨は集中豪雨的な降り方よりも常に土壤が湿るような降り方が良いのですが、これまでの観測結果からは9月に300mm以上あった年は通常豊作になっています。子実体の成長期である10月は晴れて暖かい方が収穫量が伸びますし、品質も良いものになります。

さて、このような観点から平成9年の状況を見てみましょう。主な地域の3～10月の気温と降水量を表1に示しました。春から夏にかけての気温は各地とも平年値をやや上回りましたが、降水量は南信ではほぼ平年並に達したものの他はかなり下

回りました。シロの発達という点からはまずまずの条件と受け取れました。次に、秋の条件のうち9月の降水量は各地ともほぼ平年並でしたが、これまでの乾燥経過の後のこの量では絶対量が不足したといえます。10月は晴れましたが気温の下がり方がやや早い状態でした。

マツタケの発生状況については県下5個所の試験地の結果を表2に示しました。発生本数はいずれも豊作年の平成8年には達しなかったものの、豊丘村を除き4試験地では最近5カ年間の平均値を超えていました。収穫期間はいずれも10月上旬に集中し、短い傾向でした。

以上の結果から、平成9年の本県のマツタケの作柄を考えると平年並かやや平年を上回る状況と推測されました。

(特産部 小出)

表2 試験地におけるマツタケの発生状況 旬別発生本数

区分	年	7月		8月			9月			10月			11月	合計		発生シロ数 現存シロ数
		中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		本数	Kg	
豊丘村・施	5	—	—	—	—	1	2	1	209	82	46	3	—	344	12.1	20/21
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	21	34	8	9	74	3.2	10/21
	7	—	—	—	—	—	—	—	9	115	41	1	4	170	6.1	10/21
	8	—	—	—	—	—	—	—	128	227	24	4	—	383	15.7	15/22
	9	—	—	—	—	—	—	—	7	78	65	8	—	158	6.6	11/22
辰野町	5	—	—	—	—	—	—	—	2	1	—	—	—	3	0.07	1/1
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0/1
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0/1
	8	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	2	0.06	1/1
	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	0.1	1/2
上田市	5	15	7	2	—	—	9	—	13	61	22	—	—	129	11.3	6/6
	6	—	—	—	—	—	—	—	2	25	43	11	—	81	—	5/6
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	1	34	15	—	50	3.4	4/6
	8	—	—	—	—	—	—	—	—	67	38	—	—	105	10.2	5/6
	9	—	—	—	—	—	—	—	—	17	79	—	—	96	4.8	4/6
塩尻市	5	夏期発生あるも未調査					6	68	53	13	2	—	—	141	11.0	19/24
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	14	28	12	1	55	3.2	11/24
	7	—	—	—	—	—	—	—	15	31	21	7	—	74	3.9	16/24
	8	—	—	—	—	—	—	7	78	106	15	6	—	212	14.8	23/26
	9	—	—	—	—	—	—	—	11	112	40	2	—	169	9.3	21/26
松川町	5	—	—	—	—	—	—	—	22	7	1	—	—	30	—	8/8
	6	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	1	—	4	—	2/8
	7	—	—	—	—	—	—	—	—	17	11	2	—	30	—	8/10
	8	—	—	—	—	—	—	4	35	43	7	—	—	89	3.5	12/12
	9	—	—	—	—	—	—	—	2	47	31	1	—	83	2.1	11/12